

くというのは、いただくというよりも、それは拠出するためにためておいているんだと思いますけれども、国民が今苦しくて電気代が高いと言っているときに、本当に、発電もしない、絵に描いた餅かもしれない再処理工場に対して、どうなんだろうと私は思うんですよ。

私は、関電が再処理に出したオラノという会社、以前、コジエマに行ったことがあります。コジエマはアレバになって、それからALPS処理水をした会社になって。そのコジエマのときに行ったんですね。そのときにラアグの、怒れる母たちという母親たちの団体とお会いしたんですよ。そのときに、ここの子供たちが、ボーモン県の子供たちですね、白血病が多発した、それはあなたたち日本人のせいだよと言われたんですね。私、そのときに、ああ、そうですねと思いました。

イギリスやフランスに再処理を委託してやらせていた。お金は払っていたと思います。でも、国産のエネルギーということで原発に依存する余り、他国に、それは迷惑とは言えないかもしれない、だけれども、ある程度の影響があるのではないか。国産エネルギーといっても、ウランはほとんどが海外から買ってきていますよね。そこには、先住民の人たちには、やはりいろいろな被害が出ています。そこは、その国の責任だと言われればそれまでですけども、私は、やはり子供たちのことを考えると、申し訳ないと思います。

そしてまた、青森の六ヶ所再処理工場は、二〇〇六年にアクティブ試験で実験をしたので、レックスと違って、中の様子を目視もできない、もちろん補修工事もできない。耐震設計に関する問題もいろいろあると思うんですよ。

再処理とかというのは、電力を生まないし、必要ないんじゃないかなと思うんです。今日、午前中にも、再エネを制御している。そんなもったいないことをして原発を造って再処理もやってって、何なんだろう。私個人としては、再処理なん

かしてほしくないんですよ。

再処理は、何もなくても、稼働しなくてもというか、発電しないのに、三日動かせば原発一年分の放射能を出すというふうに言われております。そんなものを青森県では、高レベル廃棄物だっけいつ出してくれるか分からない。五十年したら出すという約束。いろいろなところにいるいろいろな約束をしていますよね。おらほの県から出してくれというところがいっぱいあると思いますよ。でも、全部それは六ヶ所に行くわけでもないし、福島に行くわけでもない。だから、先のこと考えたなら、もう原発からは撤退するべきなのではないかなと私は思うんですよ。

もちろんCO₂という言い訳はしますよね。だけれども、本当にそうなのと。制御しなきゃいけないぐらいの再エネがあるんだから、もっと工夫したらメイド・イン・ジャパンのすばらしいエネルギーが出て、いろいろな企業がもっと伸びていくんじゃないのかなと思うんですよ。何かあったら大変な事故になる。

今、そういうことを考えたときに、経産省がもし英断をして、いや、核燃やめます、原発やめますと言ったら、これはもう全国的な、全世界的なニュースになると思うんですよ。

宮沢賢治がこう言ったんです、世界中が平和じゃないと個人の幸せはないよねと。だから、日本は日本のことだけ考えていちゃいけないんじゃないかなというふうに思うんですよ。

私は、すばらしい日本の技術、分かります。すばらしい省エネでも、ラピダスのときもそうです。すばらしいな、日本にこれからチャンスがあるかもしれない、本当にジャパン・アズ・ナンバーワンにもう一度返り咲くかもしれない。でも、そのときにもっと倫理的であってほしい、哲学を持ってほしいと思うんですよ。ミッション・ビジョン・バリューのように、あのようすばらしい考えを持った人たちがいらつしやるんだから、本当に、原発ってどうなの、再処理って本当に必要なの、そうやってもう一度みんなで考えて

いたらいいなと思っています。もう時間ですので、これで終わりにします。どうもありがとうございます。

○宮崎委員長 次は、辰巳孝太郎君。

○辰巳委員 日本共産党の辰巳孝太郎でございます。

今日は、この委員会で何度も何度も何度も取り上げてきた万博問題、メタンガス問題を取り上げたいというふうに思います。

四月の六日、テストランが行われてまして、我が党の寺本けんた守口市会議員が、昨年三月に爆発事故が起きたグリーンワールド工区、夢島一区の工区、東トイレ付近のマンホールを検知器で測定をしたところ、メタンガスが爆発する濃度の50%超えが表示されました。寺本議員はすぐに会場スタッフに伝えましたけれども、消防に通報することもなく、事の緊急性を把握せずに、防災センターにもつないでももらえずに、やむを得ず一一九番通報いたしました。

まず、大臣、今回の爆発濃度のガスが出た状況、原因を教えてください。

○武藤国務大臣 グリーンワールド工区の屋外の電気通信設備の地下ピット、ここで今委員おっしゃられたような五ボリウム%超えのメタンガスが検出されました。当該箇所である夢洲一区というのは、これまでもメタンガスが発生していた場所であります。

今、当該箇所につきましては、会期中のメタン対策として、穴が空いたマンホールへの交換などは、十分な換気ができていなかったということが原因と考えているところであります。

○辰巳委員 今大臣おっしゃっていたように、昨年の三月の二十八日に爆発事故が起きて以降、万博協会はその対策として、電気設備が下に入って配線が入っているようなところのマンホール、これは元々穴が空いていないようなマンホールなんだけれども、そこに穴を空けて、有孔化です。穴を空けてガスを出す対策をしますという

て、この間、工事期間中もやってきた。会期中もこれでやろうとしていた。ところが、結局、ガスは除去されなかった、されておらずに、爆発濃度のガスがそこに滞留をしていたということなんですよ。

これは大問題なんですよ。穴が空いていますから、いつかの質問でも私はやりましたけれども、これはたばこでも入れられたら一巻の終わりですよ。爆発ですよ、これ。

大臣、これは対策がちゃんとできていなかったということなんじゃないですか。何でメタンガスは逃げていなかったのか。対策ができていなかった、このことをお認めになりますか。

○武藤国務大臣 今回、五ボリウム%超えのメタンガス検知において、その他のグリーンワールドエリアの地下ピットでは基準値を超える濃度は検出されていません。また、当該地下ピットですが、蓋を開けて換気を行ったところ、メタンガスは検出されなくなりました。このことから局所的かつ一時的なものと考えられておりまして、会場全体に広がる全く事象ではないというように報告を受けているところでです。

今委員おっしゃられたように、今回ガスが検出された地下ピット、これも蓋を常時開放することとして、周辺箇所も含めてモニタリングの頻度を上げていくなどの追加対策を講ずることによりまして、更なる安全確保、これに万全を期すものと承知をしているところであります。

○辰巳委員 蓋を常時開放するというんですけど、これはなぜそうだったかというと、四月六日のテストランで爆発濃度のメタンガスが検知をされたからなんですよ。ですから、この約一年間やってきた対策は何だったのか。全く役に立っていないかったということですよ。蓋を常時開放せなあかんわけですから。

今日おつけした資料の中には、人が立ち入ることがないように当該箇所の周囲に柵を設けることにしましたというんですよ。今になってそういう対策をせざるを得なかったということが大問題

なんですよね。

大臣、グリーンワールド工区というのは、メタンガスが一日、一日ですよ、二トン以上出ているんです。二十五メートルブルーにすれば、九つ分以上のメタンガスというのが毎日毎日出ているんです。これは今も増えていると言われております。これは、柵を造るとか、蓋を開けておくとか、ここだけでいいんですかということですよ。グリーンワールド工区、夢洲一区というのは、本来は立入禁止にせなあかん、そういう類いのメタンガスが、常時、毎日、制御できない、コントロールできないメタンガスというのが出ているということ、これをやはり認識せなあかんと思いますよ。非常にずさんな対策、このことも指摘しなければなりません。

それだけじゃありません。今日おつけしました資料も見てください。今日おつけしました資料も見ていただきますと、三枚目ですがね、これはガス抜き管なんですけれども、バスターミナルのところに数十本のガス抜き管というのが出ております。これは私が危険だ危険だという話で指摘をしたところ、先っぽが傘を逆にひっくり返したようになるとなっているんですね。これは私が、もしこのガス抜き管のところにたばこの火でも入れられたらえらいことになるよということで、この蓋の部分も逆にくつと、対策をしたということだとお聞きをしております。

ところが、それだけの対策では全く不十分だということが分かりました。

真ん中あたりに穴があるのが分かりますでしようか。実は、ここにメタンガスの検知器を毎日差し込んで、メタンガスがどれぐらい出ているのかということのを万博協会が調べているんですね。

ところが、この四月六日のテストランのときには、何か普通はガムテープでこの穴を塞いでいるらしいんですけども、このガムテープがべろつと剥がれていたということで、消防士である我が党の寺本けんた守口市議員が、じゃここでも調べてみようということ検知器を挿しますと、も

ちろん爆発濃度のガスが検知をされた。ガスを出していますからね、それは濃いのは当然なんです。

だけれども、問題は、ここは誰でも行ける場所なんです。バスターミナルの通路ですからね、ここは。こんなところに、先ほども申し上げたように、上からたばこは放れないかもしれないけれども、これはちようだばこが入るような穴の大きさになっているじゃないですか、高さになっていないじゃないですか。こんなところに入れたら一巻の終わりじゃないですか。これはどうするんですか、大臣、いかがですか。

○武藤国務大臣 このグリーンワールドのガス抜きの管ですけれども、あれは多分、去年の臨時国会のときだったかな、委員からその御指摘を受けて、私もその後に行つて、あれは何じゃ、あれはやばいだらうという話があつて、すぐやるということになって、それがこういう形で、形を変えていらつしやるんですね。

今おつしやつたようなメタンガスの測定の穴というものも、これはもう確認させていただきましたけれども、測定孔については、通常、メタンガスの測定時以外はテープで塞いでいるということなんだそうです。理由は分からないけれども剥がれちゃつたと言うから、ちよつとそれは待て、それは駄目だよということ、いや、これはもうそういうことで、間違ひなく外れないようにこれからもちろんとやりますと。じゃ、何で外れたの、おまえちゃんとビデオで確認しているのか、それをと。

そういうものも当然ですけれども、これはカメラもあるわけですから、誰がやったのかはよく分かちません、これは虫か鳥かもしれないし、何か分からないけれども、一応、そういう意味で、万全を期すためにこのテープ補強というものの対策を講じながら、委員の御指摘も含めて、異常がある場合には直ちに報告するよう警備員等に周知して、更に徹底していきいたいというふうに思っていますところでありま。

○辰巳委員 いや、本当にそれで十分なのかというふうに思いますよ。

たばこはこういうところでは吸えないということになっているんでしょうけれども、たばこが好きな人は耐えられない人もいますからね、本当に。大阪市役所の中でたばこが吸えないということで、わざわざ公用車を借りて、その中でたばこを吸うた大阪市長というのがいたんですね、万博誘致した松井一郎さんなんですけれどもね。耐えられない人もいるんですね。どれだけ対策しても、これはこういうところで本来やるべきじゃないということなんです。

それと、もう一点。ガスは夢洲一区中に出ていますから、非常に危険で、一区で裸火は禁止だという話を、全体でも火は禁止だという話があつたのにもかかわらず、万博協会は、いろいろな例外を作つて、プロパンガスの使用なども認めてきた。これも非常に重大だと思つてますが、ライターの問題、ライターね、大臣。

これは実は、ライターの持込み、多量のライターの持込みは禁止となっているんです。ところが、この寺本議員も持込み検査をやつたときに、ライター一つだけ持つていった、それはオーケーだということですよ。何で、一つはええのに、多量は駄目。ライター一本だけで火をつけますよ。ライターを全区的に禁止をするべきだと思うんですけども、いかがですか。

○武藤国務大臣 規約も見せていただきました。大量のライターは駄目だということになっているんですけども、現時点でライター自体の持込みについては禁止していないものと承知をしているところですよ。

一方で、安全性、これをやはり担保するためには、基準値を超えないように既に追加対策を講じ、引き続き、メタンガスの低濃度管理を徹底していくという報告を受けているところでありま。

○辰巳委員 いや、怖い怖い、怖いです。大臣がやばいやばいと言つてるぐらいでしょう。

メタンガスというのはコントロールできないから怖いんですよ。先ほどの爆発濃度のときも、彼が検知したその日も、朝検査したときはゼロvol%だったというんです。朝ゼロであっても、昼間になつたら爆発濃度に行っちゃうんですよ。

その穴だけじゃないですよ。夢洲一区全体が、ごみの焼却、下水汚泥も入っている、だからメタンガスが出るんですよ。だから、普通はこんなところで巨大イベントはしないんですよ。

これは、事が起こつたら誰が責任を取るのか。メタンガスのコントロールは不可能ですから、万博の開催中も発生を止めることはできませんので、十三日からの開催は見合わせるべきだということでは改めて求めたいというふうに思います。

もう一点、万博協会の問題を今日は指摘したいと思うんですが、今回のテストランの参加には全てのメディアが許可されたわけではありませぬ。会期中におけるしんぶん赤旗、我が党の機関紙です、大阪民主新報あるいはフリーランスのジャーナリストは実は排除されてきたんですね。こんなことは、赤旗でいうと、愛知万博でも東京オリンピックでもなかつたことなんです。

当時、赤旗もAD証といひまして、通過証、通行証ですね、メディアに発行されるこのAD証、取材パスも出ていました。私は、多額の国費が投入されているイベントでこれはないだろうというふうに思います。

大臣に改めて確認しますが、なぜしんぶん赤旗、フリーのジャーナリストが取材、メディアパス、これは排除されているんですか。

○武藤国務大臣 これはちよつと御説明をさせていただきます、委員からも事前通告をいただいていたので。

博覧会協会は、大阪・関西万博での取材についてのガイドラインというものを作られております。記者会見への参加などが可能なメディア関係者について入場証を発行している。

同ガイドラインには、取材、撮影における禁止事項として、特定の政治、思想、宗教等の活動目

的に利用されるおそれがある事項というものを掲げているということだそうです。博覧会協会では、御指摘のしんぶん赤旗を含めて、政党誌、宗教誌に関しては、こうしたおそれがあることからメディア関係者用の入場証を発行しない方針としていると承知しております。

ただし、同ガイドラインは、政党機関紙の記者が一般来場者として会場内に入り、撮影をする、取材活動をするのを妨げるものではないということだそうです。

このため、しんぶん赤旗を含めたメディアについて、不当な取材制限をかけているものではないとは認識しているところであります。

○辰巳委員 いや、大臣、今申し上げた、特定の政治、思想、宗教等の活動目的に利用されるおそれがある、こういうところを排除しているんですか。これ、初めて聞きましたよ。初めてですよ。

大臣、経済産業省の記者会見も、内閣府の記者会見も、厚生労働省の記者会見も、赤旗は認められて入っているんですよ。万博協会は公益社団法人ですよ。役員、職員はみなし公務員ですよ。何で、そんな万博協会がそんなことで排除できるんですか。

これは、要するに、万博に都合のいい報道をしてくれるところだけを認めるということじゃないですか。万博に都合の悪いような報道をするようなところは認めないということじゃないですか。大臣、これはあり得ないと思いますよ。そういう方針は撤回するべきだと思います。いかがですか。

○武藤国務大臣 繰り返しになりますけれども、博覧会協会のガイドライン、これは政党機関紙の記者が会場内に入り、撮影する、取材活動をするのを妨げるものではないと認識をしているところでありまして、現時点でメディアガイドラインの改定等の措置を行う必要があるとは認識していません。

ただ、他のイベント等の事例については、これは事務方にちよっと確認をさせていただきたいと

いうふうに思います。指示していきます。

○辰巳委員 大臣、ちよっと最後が聞こえなかったんですけども、他のイベント、今私が申し上げた官公庁などに赤旗が認められて取材をしているというところなども勘案して、万博協会として、それも勘案して判断していくということによろしいですか。

○武藤国務大臣 それを踏まえて、他のイベントの事例については、事務方に確認を指示していくところであります。

○辰巳委員 他のイベントにしんぶん赤旗が参加をして取材をしているということを確認することです。大臣、今うなずいていただきました。

そして、実態を見て、万博協会としての取扱いも、それを踏まえた取扱いをしていくということによろしいですか、もう一度、答弁をお願いします。

○武藤国務大臣 その意味で、事務方に指示をしておきます。

○辰巳委員 これ、本当にそうなんです。

私は、昨日ですよ、昨日、経産省の方からいただいた、このメディアガイドラインというのを見たんですけども、記者クラブに加盟している記者は認めますとか、いろいろ書いてあるんですけども、せやけど、一つ、こう書いてあるんですよ。十万人以上のフォロワーを持つインフルエンサーは認めると書いてあるんですよ。しんぶん赤旗、八十万人の読者がいるんですよ。いや、本当に。認めていただきたい。

今回メタンガスの爆発濃度が分かったのも、私たちが、我が党の議員が中に入って、おかしいんじゃないかと。だから、改善されたんですよ。よかったんですよ。対策することができたんですよ。それは私たちが行ったからですよ。これは、フリーの記者も含めてきちっと認めるということを変更して求めたいと思います。

同時に、今声が出ているのは、今からフリーの記者も申請書を出すと言ってますよ。申請書を全

然出してくれなかったんだから。出してくれなかったんですよ。審査に数週間かかるとも言われているんですよ。十三日から始まるというんだから、大臣、審査を急いでもらう、赤旗、フリーの記者に関して審査を急いでもらうということも指示を出していただきたい。いかがですか。

○武藤国務大臣 先ほども申したとおり、そういう意味で確認をしていきますので、指示しておきます。

○辰巳委員 来週も経済産業委員会がありますからね。大臣、よろしくお願いいたします、本当に。もう一点。

これだけのガス爆発濃度が出ているということ非常に危険なんです。同時に今、文科省として、今日は副大臣にもお越しいただきましたけれども、万博遠足や修学旅行、これをどんどんやりましようという話になっています。

三月十九日の私の質問に対して武部副大臣は、文科省としても、学校への安全対策に関する情報提供に協力してまいりました、文科科学省としては、引き続き、安全確保の徹底について、関係省庁を通じて要請するとともに、都道府県教育委員会等に対する必要な情報の提供についても関係省庁と協力して対応してまいります、こういうふうな答弁をしております。

今回の爆発濃度のメタンガスの検知に關しても、こういうことが起こったよということを各都道府県の教育委員会に通知していただけませんでしょうか。

○武部副大臣 今般のメタンガスに係る事案については、文科科学省としても、経産省から説明を受けているところです。会期中の安全対策は博覧協会において講じるところであります。

文科科学省としても、これまでも、委員の御指摘のとおり、関係省庁に対しまして安全確保の徹底を要請しております。また、博覧協会等における学校への安全対策を含めた情報提供に協力してきたところであります。

引き続き、安全確保の徹底について関係省庁に要請するとともに、今後の都道府県教育委員会等に対する大阪・関西万博に係る必要な情報の提供についても、関係省庁と連携し、適切に対応してまいりたいと思います。

○辰巳委員 ほぼ前回と同じ答弁ですよ、副大臣。せやけど、現場は本当に困っていますよ、先生方は。大丈夫なのか、こういう懸念が払拭されないの、万博遠足をやめるという学校も今どんどん増えてきております。これは、事が起こったから、責められるのは現場の先生、教職員たちですから。文科省として、これはもうどう考えても安全とは言い切れませんから、遠足や修学旅行を見合わせること、これを求めていっていただきたいというふうに思います。

危険な万博をストップさせるために引き続き頑張る決意を述べて、私の質問といたします。

以上です。ありがとうございます。

○宮崎委員長 次に、吉良州司君。

○吉良委員 有志の会、吉良州司です。

自分の考えを自分の言葉で語られる武藤大臣、本音の話ができればなと思っています。

トランプ関税、これまでも多く質疑が出ていますけれども、トランプ関税と電力の安定供給、この二つのテーマで質問させてもらいます。

まず、トランプ関税についてですけども、私は安心しているし、もう多くの人の共通認識だと思えますけれども、報復なんかしても、アメリカを恐れるだ何だ、忖度してとかではなくて、日本は何一つ国益にならないので、報復というようなことを取ろうとしなかったということについては、共通認識でもあり、よかったと思っていますし、今回九十日停止ということになって、結果論としてもよかったというふうに思っています。

一方、心配していますのが、日米首脳会談の中で、前も言いましたけれども、一兆ドルの民間投資をしたかについて、日本側がどういいう言い方をコミットと捉えていることがあって、そういう意